

ICID第24回総会及び第73回国際執行理事会(IEC)について

令和4年10月
日本ICID協会事務局

2022年10月3日(月)～10日(月)、ICID第24回総会及び第73回国際執行理事会(IEC)が、オーストラリア国アデレード市において開催されました。

日本からは、日本国内かんがい排水委員会から渡邊委員長ほか12名の委員、農林水産省(農村振興局安部次長、北田海外土地改良技術協力他)、北海道開発局、JIRCAS、JICA、JIIDから参加があったほか、世界かんがい施設遺産に新たに登録された3地区(静岡県香貫用水、同県寺谷用水及び大阪府井川用水)の関係者が出席されました。

(1) 国際ワークショップ、特別セッション

総会に先立ち、ICIDのいくつかのワーキンググループが主催する国際ワークショップや関連機関等による特別セッションが開催されました。

このうち、WG-NCWRI(新たな水資源の灌漑利用部会)主催のワークショップでは渡邊委員長及び加藤亮委員が、WG-MWSCD(水不足対応部会)主催のワークショップでは杉浦未希子委員が、それぞれプレゼンテーションを行いました。また、MG-WFE-N(水・食料・エネルギーネクサス部会)主催のワークショップでは、[雑賀委員が作成された資料を清水委員](#)が代わってプレゼンテーションを行いました。

また、JICAとFAOが共催で「受益者中心の灌漑管理 — 参加型水管理への障害撤廃と追加措置」をテーマとするサイドイベントを開催し、水田の多面的機能の発揮を通じた水田農業の恩恵の最大化等について議論が行われました。

(2) 第24回総会

総会は「持続可能な開発目標を達成するための農業用水管理における革新と研究」をテーマとして開催され、以下の2つのサブテーマについてパネルディスカッションが行われました。

Question62: What role can information and communication technology play in travelling the last mile?

Question 63: What role is played by multidisciplinary dialogue to achieve sustainable development goals?

また、総会の国際シンポジウム「将来のかんがい排水管理にむけた統合的アプローチ」では、[木村匡臣委員](#)が日本のカンントリーペーパーのプレゼンテーションを行いました。

最後に、64か国149論文等を元にアデレード2022宣言が採択されました。

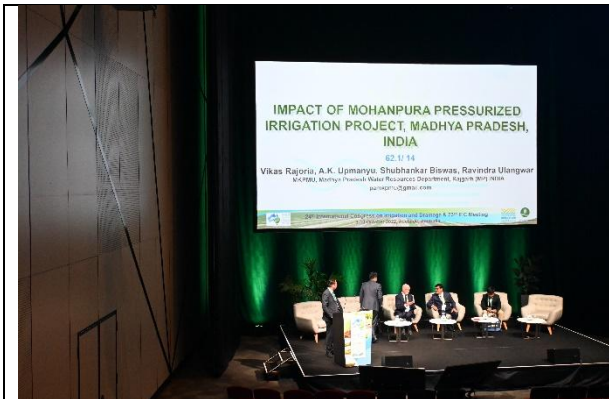
(3) 第73回国際執行理事会(IEC)

3名の副会長の改選が行われ、Mr.Bruno Grawitz(フランス)、Prof.Sylvester Mpandeli(南アフリカ)及びMr.Kushvinder Vohra(インド)の各氏が選出されました。

世界かんがい施設遺産(WHIS)については、日本の香貫用水(静岡県沼津市)、寺谷用水(静岡県磐田市)、井川用水(大阪府泉佐野市)の他、オーストラリア1施設、中国4施設、イラク2施設、インド4施設、韓国1施設、スリランカ4施設が新たに認定されました。

各作業部会開催後、常設委員会が開催され、技術活動委員会(PCTA)では、同委員会議長を務める渡邊委員長から作業部会の活動状況と成果等についての報告が行われました。

また、日本ICID協会からの特別支出5,000\$に対してICID本部から感謝の意が表明されました。



総会



総会



国際ワークショップ (WG-WFE)



JICA-FAO主催の特別セッション



世界かんがい施設遺産認定式



関連企業による展示会